

令和6年度 学校法人静岡理工科大学 星陵中学校・高等学校 自己評価 学校関係者評価

学校関係者評価

※評価は、以下の基準に従い、各項目ごとに5段階で客観的に評価してください。

5	:	最も良好
4	:	ほぼ良好
3	:	普通
2	:	やや不良
1	:	不良

どのような学校を目指すのか		校訓「誠実な心でことにあたる 友情の和を広げる 厳しさを自ら求める」の実践をとおし、比較優位性の高い「選ばれる学校」となる。												
基本方針		1 健全な運営体質維持のため、タイムリーな情報発信を可能とするマーケティングを進化させ、同時に教職員のプレゼン力を高める。 2 ラーニングマネジメント（学習管理）システムを再構築し、教員の教科指導力・受験指導力を向上させ、進学校としての実績を高める。 3 長期計画・長期構想のもと、教育活動全般をとおしてアントレプレナーシップ（起業家的行動）と新たな価値を創造しうる能力を育成する。 4 全教員一丸となって星陵のレバレッジ度（学力伸長度）を分析し、より効果が見込める新たな広報手法を開発し、あらゆる機会に発信する。 5 法人内連携教育と星陵の「SDGs第3段階」「STEAM教育」「Peer Learning」「PBL」「Global」を広く発信し、学園のブランド力向上を図る。												
昨年度の成果と課題		本年度重点目標		本年度重点施策		達成状況								
◎健全な運営体質維持のため教員の募集スキルを高めた ◎全ての入試に対応し得る、質の高い教育を実践した ◎法人内各校と連携しSTEAM教育を展開した ◎Next Innovatorを養成する教育を計画・立案した ◎英語4技能を高め、海外交流校とAL型PBLで交流した ◎星陵ラボとPeer Learningを合わせ学び、学習を深めた ◎安心・安全な環境を整え、期待度・満足度を高めた		【入口目標】募集定員を獲得するための活動を展開 【中身目標】学園力を集結させる 他校と差別化を図り、選ばれる学校となる 長期計画・長期構想の方向性を固める アントレプレナーシップを育成する 教職員一丸となって学校を運営し地域から愛される 【出口目標】地域公立高校を凌ぐ進学校となる		・学園の健全な運営体質維持に向けた募集活動を展開する ・教員一人ひとりの教科指導力・受験指導力を向上させる ・星陵の10年後の在り方（あらまほしき姿）を追求する ・アントレプレナーシップ能力を育成する ・教職員の相互成長と絆を深め、更に愛される学校となる ・レバレッジ度（学力伸長度）を分析し、広報する ・法人内連携と星陵の教育との連携を発信する		目標達成 目標達成 目標達成 目標達成 目標達成 目標達成								
評価項目	具体的目標	具体的方策	自己評価		成果・次年度への主な課題	学校関係者評価								
			評価	平均		評議員A	評議員B	評議員C	同窓会	地域住民	地元企業関係者	教育関係者	平均	
総務部	健全な運営体質維持のため、目標定員を確保する。	PDCA・OODAループにより、募集活動を展開する。	4	4.0	時宜に応じた募集活動を展開し、更に内容を精査し充実させる。	5	4	4	4	4	5	5	4.4	
		星陵のレバレッジを最大限効果的に活用し、組織的な広報活動を展開する。	4		学習活動の成果をより効果的に広報するための、発信力の強化を図った。									
		教養と非認知能力の向上に有効な教育行事を研究・検討する。	4		学校行事実施後の評価・改善を徹底し、教育効果を向上させた。									
入試広報課	学習環境を充実させ、期待度・満足度を高める。	校内のICT環境を充実させ、学習環境のDX化を推進する。	4	4.0	DX化の推進により学習の効率化と指導の質の向上を図った。	5	4	4	5	5	5	4.6		
		「多様性ある星陵」というブランドイメージを創り、広報を展開する。	4		中学・高校ともに学則定員の入学者を獲得した。									
		新たな広報手法を開発しながら、星陵の強みを最大限アピールする。	4		学校見学会等を丁寧運営し、星陵に関する正しい情報を伝えた。									
総務課	従前の学校行事の目的・内容・方法を見直し、検討・実施する。	学校見学会等を丁寧かつ効果的に運営し、星陵を正しく理解してもらう。	4	4.0	積極的に新たな広報手法を開発し、星陵のアピールにつなげる。	5	5	5	4	4	5	5	4.7	
		式典や行事を他課と連携し、状況の変化に柔軟に対応し円滑に運営する。	4		厳粛な式典を企画し、状況に応じて柔軟かつ円滑に実施した。									
		本校の教育活動を魅力的に伝える広報媒体を作成し、発信する。	4		学校要覧・星光会だより等を作成し、本校の魅力を外部へ発信した。									
図書課	「PBL」及び「Global教育」の内容を充実させ、学園の知名度及びブランド力の向上を図る。	購入図書の選定に教職員のみならず生徒からの意見を多く吸い上げる。	4	4.0	図書の対象を、紙媒体だけでなく電子書籍にまで広げた。	5	5	4	4	5	4	5	4.6	
		POPコンクールなどを実施し、進路実現に役立つよう内容を充実させる。	4		POP作品の作成やビブリオバトルへの参加を促した。									
		STEAM教育向けのソフトウェアやアプリケーションを導入する。	4		電子機器の準備、ソフトウェア更新、アプリケーション導入を検討した。									
管理課	「Peer Learning」を通じて、PBLを推進するためにICT機器を導入し、学習環境を整える。	実践的な技術スキルを習得できるよう最新のテクノロジーを提供する。	4	4.0	PC室の機器リプレースやネットワークの無線化等、環境整備に努めた。	5	4	5	4	5	4	5	4.6	
		多様な機器に触れることでその活用を考え、創造性を引き出す。	4		デジタル機器活用の拠点となる「デジタルラボ」を整備した。									
		教科横断的な学びにより、学びに向かう人間性等を育成する。	4		ソフト面の充実を図り、探究活動をさらに推進する。									
教務部	DXを活用した探究的な学び・STEAM教育などの機会の確保および対話的・協働的な学びの充実を図る。	Edtech教育の推進と探究活動を通して、主体的に学ぶ姿勢を養う。	4	4.0	ICT機器・ツールの活用法を共有し、互いの授業力向上を図る。	5	4	5	4	5	4	5	4.6	
		SDG s 第3段階活動により、多面的に物事を捉える力を養う。	4		学内外の発表会を通して多様性について考察を行った。									
		カウンセラーとの連携・調整をし、カウンセリングを円滑に運営する。	4		カウンセラーとの連携を密にし、カウンセリングを円滑に運営した。									
教育相談課	カウンセラーと連携し、生徒個々の理解を深め、生徒が安心感を持って生活できるようにする。	教員間の連携により、生徒にあった支援を実践し困り感を軽減する。	4	4.0	カウンセラーからの助言を関係者で共有し支援を実施した。	5	4	4	4	5	5	5	4.6	
		高大・高専連携教育を通じて、参加者の質、意欲を向上させる。	4		連携教育の内容を精査し質の高い講義内容を参加者に提供した。									
		高大・高専教育を再構築し、より多くの生徒に恩恵のあるものとする。	4		教育内容の見直し知識技能の向上を図り内容を充実させた。									
法人内連携教育推進課	法人内大学、専門学校と連携した教育活動を展開する。	プログラムの拡充を図り、SDGs×AL型PBLの精度を上げる。	4	4.0	SELプログラムを始め、海外研修・留学にSDGsの探究学習を組み入れた。	5	4	4	4	5	5	5	4.4	
		短中長期研修（留学）のシステムづくり及び内容充実を図る。	4		新規カナダ中期留学を開始し、豪州長期留学を再開した。									
		「星陵型グローバル教育」を認知してもらうよう校内外へのPRを図る。	4		校内への掲示や紹介冊子の作成・活用を通してPRを図った。									
教科	国語	知識・思考力を養う授業において、STEAM教育を展開する。	4	4.0	教材の力を借りながら、様々な分野について思考する授業を展開した。	5	4	4	4	5	4	5	4.4	
		机上の学習とPeerLearningを展開し、非認知能力を養う。	4		論理的文書・文学的文章において生徒間の話し合いを充実させた。									
	地公	非認知能力を養うための授業を展開する。	4	4.0	生徒間の交流を通して視野を広げた。	5	4	4	4	4	4	5	5	4.3
		ICT機器を積極的に活用し、知識・思考力を育成する。	4		ICT機器の活用を通して、主体性及び技術の向上を図った。									
	数学	思考力を養う授業を展開し、数学的な見方・考え方を働かせた活動を実践する。	4	4.0	共通テストを分析し思考力・課題解決型の授業展開を実施した。	5	5	5	4	5	5	5	4.9	
		Edtech教育を推進し、課題発表や対話的な学びを実践する。	4		数理的問題の応用から論理問題へと発展し、対話的な学びを実践した。									
	理科	課題配信や動画視聴など、オンラインツールを家庭学習に活用する。	4	4.0	長期休みや小テストなどにスタディサプリを活用した。	5	4	4	4	5	5	5	5	4.6
		実験の結果予測や思考過程、協働作業から非認知能力を養う。	4		予測と結果を用いて、その実験から得られる法則性を話し合いで考察した。									
	保体	PeerLearningを実践し、生徒の思考・判断・表現力を高める。	4	4.0	実施事例を共有し、課題解決型授業の展開を目指した。	5	4	4	4	4	4	4	5	4.3
		ICT機器を活用し主体・対話的な学びに繋げ、課題を解決する力を高める。	4		ICT機器を有効に活用し、主体性及び技術の向上を図った。									
	美術	生活や社会の中の美術文化と関わる題材設定・授業計画の工夫をする。	4	4.0	伝統的な造形を生かしながら時代に合わせた題材設定を進めた。	5	4	4	4	4	4	5	5	4.4
		ICT機器等を工夫・活用し、課題把握・主体的姿勢の向上を図る。	4		ICT機器の活用を進め、視覚的・共同的な授業の向上を図った。									
書道	古典臨書を通して、時代性・多様性を学び、様々な書法を習得する。	4	4.0	臨書から自筆創作へ生涯学習に繋げる主体的な授業展開を進めた。	5	4	4	4	4	4	5	5	4.4	
	実社会で行われている書式や様式について理解し書写力を高める。	4		実用書写力能力の向上、行書体のリズム構成の体得に努めた。										
英語	スピーキングテストやプレゼンテーションを行い、話す力を高める。	4	4.0	スピーキングの評価にAIの活用を試行した。	5	5	5	4	5	5	5	5	4.9	
	「20分の挑戦」を活用し速読力やリスニングのトレーニングを行う。	4		英検の合格率向上や共通テストの得点力向上に寄与した。										
家庭	ICT機器を利用しながら、家庭や地域の生活課題を主体的に解決する力を身に付ける。	4	4.0	ICT機器を活用し、主体的に問題解決能力を育んだ。	5	4	4	4	4	4	4	5	4.3	
	生活の充実向上を図る能力と実践的な活動を行う。	4		実習を通して生活能力を高め、人間として自立することを目指した。										
情報	教科書の内容に合わせた課題を、ICTツールの活用により行わせる。	4	4.0	ICT活用により主体性を育成し、情報共有・共同作業の効率化を図った。	5	4	5	4	5	5	5	5	4.7	
	プログラミング実習を通じデジタル技術への理解を深め、情報社会への適応力を高める。	4		プログラミングを通じ論理的思考力を養い、情報活用能力を高めた。										

指導部	学習面でのサポート体制を強め安心感を与え、さらに教科毎のPDCAを「可視化」し共有、進学実績等で他校と差別化を図り、選ばれる学校となる。	質の高い、授業・講座を実施し「知識・思考力を養う授業」を展開する。	4	4.0	知識を習得し、PBLによって思考力を高めるよう努めた。	5	4	5	4	4	5	5	4.6					
		G-STEAM教育の実践により、深い研究活動を展開し、高い進学実績を築く。	4		美育教育を通じてG-STEAM教育の実践することができた。													
		SDGs第3段階（複雑性の理解）を展開し、他校との差別化を図る。	4		全ての行事に一貫した方向性を持った実行した。													
大学進学指導課	変化の大きい大学入試の情報を収集、分析し学校全体で共有することで、統一感のある星陵流進学指導体制を構築する。	日常生活において「なぜ」という問いを持つ習慣を付けさせる。	4	4.0	凝り固まった視点や思考に変化をもたらし機会を設けた。	5	5	5	4	5	5	5	4.9					
		「なぜ」という問いから「ビジネスになる」という視点を持ち、プラン化を進める。	4		全ての行事を通じて起業を促した。													
		大学入試の出願検討会を行い、生徒個々の合格精度を高める。	4		入試形態に応じた出願検討を行い合格につなげた。													
進路課	地元で長くリーダーとして活躍できる人材を育成し、就職にも強い星陵を地域にアピールする。	実施した模試に対して、分析会を実施し授業の改善につなげる。	4	4.0	模試の結果から指導の効果を分析し、授業の改善をすすめた。	5	5	5	4	5	5	5	4.9					
		予備校などの入試分析会に参加し、最新の入試情報を入手する。	4		新課程入試の情報を入手し、各部署、生徒へ伝達した。													
		地元企業との信頼関係を築くため、企業訪問や面談を定期的に行う。	4		企業に本校をアピールし、担当者との信頼を築いた。													
生徒指導課	生徒指導や交通事故を未然に防ぐようにする。	各企業より知り得た情報を生徒、担当教員と共有し理解を深める。	4	4.0	校内ガイダンス、個人面談を頻繁に行った。	5	5	5	4	4	5	5	4.7					
		定期的に教員、委員会で注意喚起を行うようにする。	4		注意喚起し、自転車事故啓発のポスターを掲示した。													
		学校生活を落ち着いて生活するために服装、頭髪、化粧指導を行う。	4		定期的に頭髪検査を実施し、朝や帰りに呼びかけを行った。													
保健体育課	怪我・事故から生徒を守るための対策をとり、安心して学ぶことのできる環境を整え、生徒・職員健康管理を行う。	体育的行事や検診等の実施時期や方法を見直し、安全に実施できるよう配慮する。	4	4.0	体育的行事を通して生徒主体で安全に運営を実施できた。	5	4	4	4	5	5	5	4.6					
		体育施設や器具の点検、メンテナンスを実施するなど校内の環境整備を行う。	4		体育施設等のメンテナンスを実施し、安全を確保した。													
		各教科の授業で育成される認知能力と、探究学習（美育行事）で育成される非認知能力の両輪を回す。	4		中3に朝霧キャブ・3Dプリンターを導入した。													
高校1年部	意欲的に探究学習に取り組む。また新課程共通テストや大学入試に向けての基礎を構築する。	学校行事での新学力育成を検討するためOODAループを回し続ける。	4	4.0	行事において生徒主体の議論からアイデアを創出した。	5	5	4	4	5	5	5	4.7					
		より深い探究ができるよう指導を行う。またその活動を正確に記録する。	4		課題設定から問題解決まで主体的に進め、解決策を提案できた。													
		基礎学力を身につけるための指導を行う。	4		個別指導や小テストを活用し、学習内容の理解度を確認した。													
高校2年部	多角的な知識を得ることで、広い視野で物事をとらえる能力を養い、新入試に対応できる生徒を育成する。	探究学習への積極的な取り組みを通し、生徒の課題発見・解決力を養う。	4	4.0	高校生Ringに参加し、アントレプレナーシップの理解を深めた。	5	5	4	4	4	5	5	4.6					
		授業・講座・スタディサブリを活用し、多角的な知識を身につける。	4		スタディサブリを活用した進路指導を実施した。													
		模試の結果を分析し、総合型・学校推薦型など特性に応じた受験指導を行う。	4		推薦型選抜で国公立大学40名の合格をだした。													
高校3年部	生徒個々の特性を活かした進路指導を実施し、進路目標の実現を目指す。	個別指導を充実させ、受験大学毎の対策を実施し、合格者を増やす。	4	4.0	受験科目に対して個別担当者を決め、受験指導を実施した。	5	5	5	4	5	5	5	4.9					
		平均	4.0											4.6				

評価委員のコメント

・教職員及び関係者の努力に敬意を表すると共に感謝いたします。

・様々な結果が入学者数、進路に表れていると思います。

・先日、星陵中学校に通われている生徒さんと、そのご両親とお話しする機会がありました。生徒さんに、「星陵中学校に入ってどう？」と単刀直入に聞いてみました。すると、考える間もなく、「楽しいよ。勉強も部活も」（部活は自分の好きな文化部に入っている様です）「星陵中学に入って良かった？」「入れて本当に良かった！星陵に入りたかったから」間髪を入れずに返答してくれました。ご両親にお聞きしたところ、「まだまだ中学生、小学校の気分にいるかと思ったら、すごく大人っぽくなったというか、礼儀正しくなったというか・・・家に帰って来ても、今までとは全然違うんです。」とお話しされていました。学校の先生方のご指導や、環境、姿勢が素晴らしいからだと思います。これからも、子供達が良い教育、そして人生の中で悔いのない学生生活を送れるように、道を開けるように、ご指導の程、よろしくお願い致します。

・今年度の自転車通学の生徒は、交通マナーを守り、トラブルが発生することはなかった。また、野球部の生徒は、部活動終了後、自転車で集団下校する事から、地域で近年、不審者等の発生がなく、防犯活動の一翼となっている。住民からは感謝されている。